

専門基盤科目の科目概要(2) —人間の理解、関係の構築・調整、協働力—

科目区分	科目名	科目概要
人間の理解	心理学概論 A	心理学という学問を成り立たせている考え方や方法について学び、心理学が心のはたらきを科学的に研究する学問であることを理解する。さらに、基本的な感覚・知覚心理学、認知心理学、学習心理学、社会心理学を中心に、心理学の基本的事項について学修する。
	心理学概論 B	人間の基本的な心のはたらきのうち、主に情意的側面について学習し、人間性に対する理解を深める。感情、動機づけ、人とのかかわりの中で働く力や、そのような働き の傾性を表す概念であるパーソナリティについて学修するほか、各領域における心理測定の実例や質的研究の方法についても学修する。
	教育心理学	教育心理学の諸問題や基礎知識を理解し、多様な視点から論理的に思考する能力を養成することを目的としている。授業で取り上げる主な内容は、人間の発達、学習、適応と不適応、教授法、教育評価のほかに、子どもや生徒の理解とその指導法等である。授業の中で、小テストや小レポートを課すことがある。小テストでは基礎的な知識、小レポートでは論理的な思考を評価する。
	障害者・障害児心理学	「多様性」「共生社会」が目指されている現在、障害のある人もない人も、共に自分らしく生きることが重視されている。この科目では、身体障害、精神障害、知的・発達 の障害のある人に焦点を当て、障害に由来する特有の心理・行動を理解するとともに、その人本来の個性も理解すること、さらには多様な人が自分らしい姿・力を発揮できる社会の構築に必要なことを考察していく。
	家族心理学	授業各回では、現代の家族の多様な形(少子化、ディンクス、晩婚化、同性カップル、生殖医療、パラサイトなど)があると同時に、人間が誕生し成長する場として家族のような密接な人間関係の場を必要としていることの理解を進める。また、構造理論の視点から、家族の病理の一つの解決の方法を示す。
	福祉心理学	社会福祉の歴史と動向、理念、及び制度・法律について理解するとともに、福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解を深める。具体的には、児童福祉分野、家庭福祉分野、高齢者福祉分野、障害者福祉分野の活動について学ぶとともに、虐待や認知症の問題など、今日現場で問題となっている事柄についての基本的知識を身につける。
	心理調査概論	本科目では調査法について講義を行う。心理学研究における調査法は、予め準備され統制された質問に対し多数の協力者(被検者群)から回答を集め、その結果を統計処理して被験者群の心理的状態や行動の状況について実態を解明したり、仮説の検証を試みる。結果から仮説探索を行うための多変量解析の技法や、仮説検証を行うための推測統計法についてもとりあげる。さらに、調査の実施にあたり倫理的配慮や実施の具体的方法についても触れる。
	現代社会心理	人間の社会的行動に深い洞察力を持ち、それに基づいて人間関係構築・調整を構想、具体化し、実践することの基礎を築くべく、現代の社会心理学のいくつかのテーマやトピックスについて概論的に取り上げる。最初に社会心理学の歴史、課題、方法についてふれてから、代表的な研究トピックスを解説する。
	多文化理解	2001年、文化の多様性を擁護する宣言がユネスコで採択されたが、その背景には、どんな問題があったのか。この授業では、文化の表現手段である言語の現状について知るほか、異なる食文化や働き方、価値観などを知ることを通して異なる文化への理解を深め、多文化社会の課題について考えていく。
	社会福祉調査の基礎	本講義では、社会福祉調査の意義と目的について理解するとともに、倫理や個人情報保護について理解する。また、量的調査・質的調査の方法及び結果を適切に把握し、ソーシャルワークにおける評価の意義と方法を理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①社会福祉調査の意義と目的、②量的調査、質的調査の方法と結果、③ソーシャルワークにおける評価の意義と方法。
	障がい者福祉論	本講義では、障がいの概念と特性を踏まえ、障がい者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解するとともに、障がい者福祉の歴史と制度、法制度と支援の仕組みについて理解する。また、障がい者に対する社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①障がいの概念と特性、②障がい者とその家族の生活と社会環境、③障がい者福祉の歴史と制度、法制度の仕組み。
	児童福祉論	本講義では、児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭の生活とこれを取り巻く社会環境について理解するとともに、児童福祉の歴史や制度の発展過程及び法制度を理解する。また、児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①児童及び家庭の生活とこれを取り巻く社会環境、②児童福祉の歴史や制度の発展過程と法制度、③児童や家庭福祉領域における社会福祉士の役割。
	高齢者福祉論	本講義では、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢を理解するとともに、高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。また、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、②高齢者に対する法制度と支援の仕組み、③高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方。
医学概論	本講義では、ライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解するとともに、健康・疾病の捉え方と疾病・障がいの成り立ち及び回復過程について理解する。また、疾病予防と健康の増進をはかるための公衆衛生について理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①ライフステージにおける心身の変化と健康課題、②健康・疾病の捉え方と疾病・障がいの成り立ち及び回復過程、③疾病予防と健康の増進をはかるための公衆衛生。	

関係の構築・調整	関係構築の心理	人間関係の構築や調整に対して、具体的に構想・具体化できるようになるための基盤として、現代社会に多くみられる葛藤を生まないための表層的な関係の持ち方ではなく、真に心のこもった人間関係を築くために提案されている、エンカウンターグループ等の方法を取り上げ、これを実際に試演する。これらの体験の中で人間関係や個人内に生じる葛藤も、学習の素材として授業内で積極的に取り上げ、検討していく。
	産業・組織心理学	産業心理学・組織心理学の目的、成立の経緯・歴史、その社会的意義について概観するとともに、職場における問題とこれまで行われてきた取り組みについて学ぶ。さらにこれらの問題に対して必要な心理に関するアセスメント方法ならびに支援方法について学ぶ。また、組織における人間の行動について取り上げ、グループ・ダイナミクス（集団力動）、リーダーシップ、適性と能力、ワークモチベーションといったトピックについて理解を深める。
	社会・集団心理学	対人関係や集団内での人間の意識と行動に関する心的過程について論じるほか、人間の態度の機能と構造及び説得等の働きかけによる態度及び行動の変容について取り上げる。「現代社会心理」での概論的学びを基盤として、社会的動物としての人間の社会的行動の原理についての理解を深めていく。
	メディアと人間関係	Webの普及により、情報が氾濫する時代となった。このような状況での情報の受信においては、目の前の情報を鵜呑みにするのではなく、情報は事実なのかどうか、発信者はどのような意図で情報を発信しているのかといった点への注意が求められる。この注意に欠けると、フェイクニュースに振り回されるなど、発信者の都合のよいように振舞う受信者となる。このような、発信者に支配される受信者とならないよう、この授業では、発信者の思惑や目的なども意識できる情報読解力、すなわちメディアリテラシーを養うことを目的とする。
	文字表現論	文字を書くという行為は人間の知的営為の一つである。それは情報の記録と伝達を目的とした行為であるだけでは決してない。多様な書体・形式・媒体を用いて文字に自己意思を託して発信する側は何を企図しているのか、受信する側は、それをいかに眺め・読み・感じるのか。日本もその中にある漢字文化圏の様相を中心としながら、その歴史や文化を理解し、ときに他の文字文化地域とも比較検討しながら、文字によって表現することの意味を考える。
	対話表現論	本講義では、特に対人、小集団、異文化コミュニケーションの理論を踏まえながら、自らのコミュニケーションの気づきやコミュニケーション能力向上のためのヒントを、いくつかの事例や理論、トレーニングを織り交ぜながら紹介していく。具体的には、理論と実践、事例という3つの側面を構えている。
協働力	地域と多文化	地域において異なる文化的背景を持つ人たちが多くくらす現状に対応するため、共にくらししていく時に起こりやすい問題や心の揺れを知り、どのようなかかわり方が望ましいのかを異文化コミュニケーションの視点で考える。具体的には、講義やシミュレーション、DVD視聴、外国にルーツを持つ人へのインタビューを通し自らの価値観や行動規範に気づき、地域にくらす人の状況や困難さの要因を分析し、共にくらすために必要な協働力を身につける。
	地域共生論	かつて、地域に生きる人々の相互扶助（助け合い）は確かなものがあつた。たとえば、農村社会には「結（ゆい）」というものがあつて、田植え・稲刈りなどの農作業を多くの人々が手伝い、助け合うしくみがあつた。近年、そのような共に生きる人間どうしの協働や共生の姿はなかなかみられなくなった。しかし、今や高齢者の介護、障害者への支援、外国人との交流などが必要とされ、多様な人々が共に地域で生きていくための人間関係の構築やしくみづくりが課題となっている。異なる組織や異文化グループ、異年齢層などが共生できる社会・地域をつくろうと力を合わせている事例や、暮らしやすいまちづくりや地域振興策に取り組んでいる事例などを学びつつ、乗り越えるべき課題やより良き共生社会に向けた実現方法等を考える。
	異文化間コラボレーション	本授業では、「異文化」を広義にとらえ、社会生活における様々な場（家庭・職場・地域など）において、関係の構築や調整して集団の「協働」（コラボレーション）が成立するために、いかなるフレームワークやコミュニケーションの手法が必要となるかを検証し、「異文化間」の調整を図る知恵を学び取る。具体的には、ビジネスやコミュニティにおいて活動をしているゲストスピーカーを招き、実地での経験や現場に不可欠な知識や考え方を学生自らが学びとり、考察を加えながら定着を図る。
	保健医療と福祉	本講義では、ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を理解するとともに、保健医療に係る政策、制度、サービスについて理解する。また、保健医療領域における社会福祉士の役割と適切な支援のあり方を理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①保健医療の動向、②保健医療に係る政策、制度、サービス、③保健医療領域における社会福祉士の役割。
	社会福祉概論 I	本講義では、社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解し、日本の社会福祉の特性を理解する。また、社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論、②社会福祉の歴史、③社会問題と社会構造の関係の視点と現代の社会問題。
	地域福祉論 I	本講義では、地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解するとともに、地域福祉における主体と対象を理解する。また、福祉行財政の実施体制、福祉計画の意義・目的及び展開を理解することをねらいとする。具体的には、次のことを学び、修得する。①地域福祉の基本的な考え方、展開、動向、②地域福祉における主体と対象、③福祉行財政、④福祉計画の意義・目的及び展開。